批判的犯罪学 全4巻
Critical Criminology. 4 vols.


批判的犯罪学は、異端的で、異論が多い研究と見なされる傾向がありますが、たしかに多くの国際的な雑誌、地域組織、グローバルな学会を支える確立された研究分野として著しく発展を遂げています。

本書は批判的犯罪学を特徴づけてきた広範なアプローチ、理論、概念を理解するべく編まれた、便利で、権威のあるレファレンスです。本書は、世界中の批判的犯罪学者によって発表された最重要かつ最先端の論考（例えば文化犯罪学、マスキュリニティ研究、フェミニスト犯罪学）を集めています。第1巻「批判的犯罪学の基礎」、第2巻「新しい時代－批判的犯罪学の新しい理論動向」、第3巻「犯罪学研究の批判的問題」、第4巻「批判的介入－社会正義への関与」から構成されています。本書を犯罪学・刑事政策・犯罪社会学などの研究者の必携レファレンスとしてお薦めいたします。

VOLUME I: THE FOUNDATIONS OF CRITICAL CRIMINOLOGY
4. G. Barak and C. Pagni, 'Julia Schwendinger (b. 1926) and Herman Schwendinger (b. 1926)', (2010)

VOLUME II: THE NEW ERA—NEW THEORETICAL DIRECTIONS IN CRITICAL CRIMINOLOGY

VOLUME III: CRITICAL ISSUES IN CRIMINOLOGICAL RESEARCH
47. J. Mooney, ‘Revealing the Hidden Figure of Domestic Violence’, (2000)

VOLUME IV: CRITICAL INTERVENTIONS—ENGAGING SOCIAL JUSTICE
68. A. Bernard, ‘The Intersectional Alternative Explaining Female Criminality’, 2013
73. B. Hudson, ‘Beyond White Man’s Justice: Race, Gender and Justice in Late Modernity’, (2006)